

導電性シート エースミックSAS-R2

施工要領書



矢崎エネルギーシステム株式会社

導電性シート エースミックSAS-R2 施工要領書

1. 適用範囲

この標準施工マニュアルは、エースミックSAS-R2をコンクリート・モルタル・及び既設のタイル下地の室内床面に2液性エポキシ接着剤を用いて張付け施工する場合に適用します。

2. 仕様

1)エースミックSAS-R2施工床面の電気抵抗値

項目	性能	試験方法
2点間抵抗値(Ω)	5.0×10^6 (公称値)	N.F.P.A.99
接地抵抗値(Ω)	2.5×10^4 以上	N.F.P.A.99

2)寸法・色調

項目	仕様		
厚み(mm)	2.0		
幅 (mm)	1, 230		
長さ(M)	10		
色調	グリーン	ライトグリーン	ベージュ


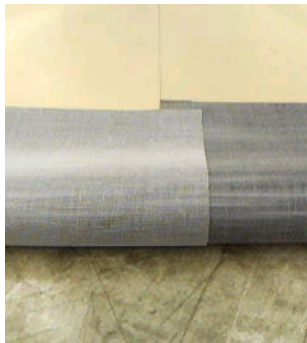
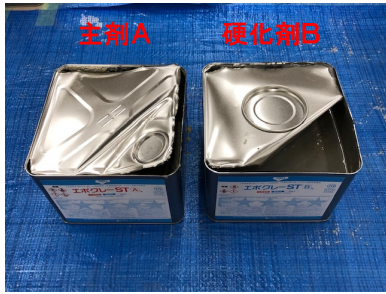

3. 施工に使用する材料



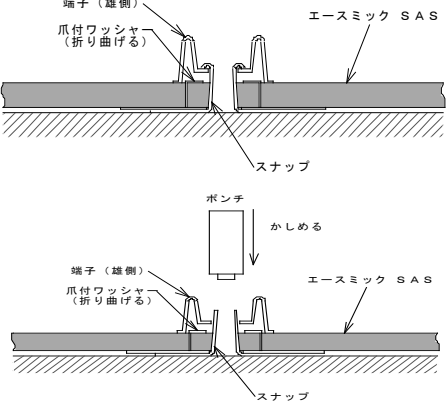
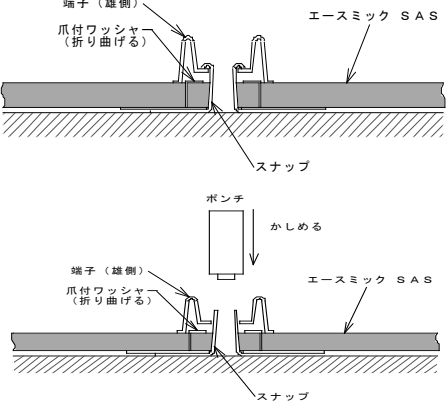
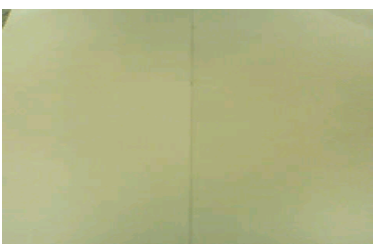
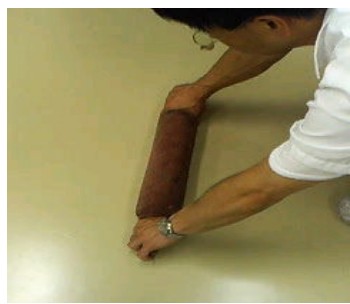
- 1)エースミックSAS-R2
- 2)2液性エポキシ接着剤(東リ製エポグレーST)
- 3)導電溶接棒(R2)
- 4)導電性ワックス
- 5)アースコード、端子

4. 施工手順

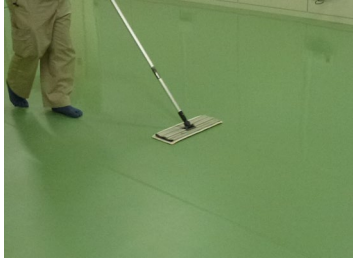
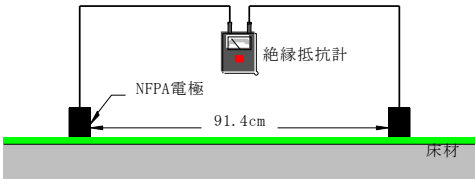
施工手順は原則として、全国床仕上げ工事業協同組合連合会(略称 全床連)発行の工法仕様書に準拠しますが、エースミックSAS-R2は特殊な導電性床材材ですので、施工の注意点も含め次ページ以下に施工手順書を示します。

エースミックSAS-R2 標準施工要領書

手順	施工要領説明	説明図
<p>1.</p> <p>1-1</p> <p>1-2</p>	<p>下地調整</p> <p>下地の調整(不陸調整) 床の平滑性を保つよう下地の調整を行ってください。仕上がりに大きく影響し、接着力にも大きな影響を及ぼしますので、下地コンクリート・モルタルに不陸がある場合、凹部には左官ごてで硬練り下地補修材を充填し、凸部はサンダー掛け等を行い床全面を平滑に仕上げてください。</p> <p>下地の清掃 下地の不陸調整後、モルタルかす・チリ・ホコリ等を吸引力の強い電気掃除機で掃除するか、湿らせたおがくずを撒き散らし、箒で掃取ってください。また、下地に油分がしみ込んでいる場合には溶剤等により除去します。</p>	<p>下地の清掃</p> 
<p>2.</p> <p>2-1</p> <p>2-2</p>	<p>エースミックSAS-R2</p> <p>割付 室内にエースミックSAS-R2の割付を適宜行い(右図参照)窓際、出入り口、柱付きなど収まりを確認し、張り出し墨を設定します。</p> <p>仮敷き 割り付け寸法より30~50mm長めに荒切りし、仮敷きを行います。仮敷きの際シート幅の片端を10~30mm程度重ね合わせ、位置決めを行います。</p>	
<p>3.</p> <p>3-1</p> <p>3-2</p> <p>3-3</p>	<p>接着剤の塗布</p> <p>使用接着剤 2液性エポキシ接着剤(東リ製エポグレーST・タイルメント製EP9900等と同等品)を必ず使用してください。プラスチック成分の多いエースミックSAS-R2の場合、シートの寸法が温度によって変化しやすい特性があるため短時間硬化型の接着剤を使用しないと、施工後にシートが膨れたり、よじれたりする事があります。</p> <p>各液の混合攪拌 主剤Aと硬化剤Bをそれぞれ別々に、攪拌機を使用して十分に混合攪拌します。(内容物が沈殿しやすい性質があります。)</p> <p>2液の混合 主剤Aと硬化剤Bを1:1の割合で攪拌容器に取り分け必ず攪拌機を使用して、2剤が均一に混ざり合うまで攪拌します。1回に混合する量は1時間以内に使いきりができる量としてください。(混合後1時間経過すると硬化が進み使用できなくなります。)</p>	<p>主剤A 硬化剤B</p>  <p>各液の混合</p> <p>2液の混合</p> 

手順	施工要領説明	説明図
3-4	<p>接着剤の塗布</p> <p>添付のクシゴテ等で基準線に沿った張り付け工区から、接着剤を塗布していきます。このとき接着剤は墨線いっぱいまではみ出さずに塗布してください。一回に塗布する面積は人数、張りスピード等によって異なりますが、塗布後1時間以内にエースミックSAS-R2の張り付けができローラー掛けまで約2時間以内に完了できる面積とします。接着剤塗布後1時間以上経過すると接着剤の硬化が進み、エースミックSAS-R2の張り付けができなくなります。</p>	 
3-5	<p>オープンタイム</p> <p>2液型エポキシ接着剤は塗布後暫く時間をおかないと粘着力が出ません。したがって、塗布した後暫く放置し塗布された接着剤に指を押しつけて引きはがしたときに接着剤が少し糸を引くくらいの粘りが出るまでオープンタイムをとります。(オープンタイムは、施工時の温度、湿度、風の通り等によって変わりますが、10分から、20分程度が目安となります。)</p>	
3-6	<p>アース端子の取付</p> <p>アース端子は、エースミック床材とアースをアースコードで確実に接続するための端子である。アース近くのシート部分に端子を取り付けてからシートを張り付けます。</p>	
4.	<p>エースミックSAS-R2の張り付け</p>	 
4-1	<p>貼付け</p> <p>接着剤の粘着力が向上した事を確認した後エースミックSAS-R2の貼付けを開始します。貼付けは折り返したエースミックSAS-R2を押し戻すように貼付けていきます。</p>	
4-2	<p>ガスの追い出し</p> <p>エースミックSAS-R2を貼付けた後、シゴキ棒によるガスの追い出しをかならず行ってください。この作業が不十分になると、ガス溜まりによる膨れの原因となります。接着剤を塗布した部分の貼付け、ガス追い出しが完了したら、未施工部分を逆方向に折り返し、同様の接着剤塗布、及び貼付け作業を繰り返します。</p>	

手順	施工要領説明	説明図
5. 5.1 5.2 5.3	貼付け仕上げ 突き付け切り エースミックSAS-R2全面の貼付けが完了した後、幅方向の重ね代をセレス・スクライバー等でけがき、突き付け切りを行います。 端部押え 突き付け切り後、ハンドローラー等で端部を床面にしっかり押しつけてください。 ローラー掛け シート張り付け開始後30分経過してから30～40kgのローラーで縦横まんべんなくローラー掛けを行います。 また、ローラー掛けの回数が多いほど密着が良くきれいな仕上がりとなります。	  
6. 6.1 6.2	継ぎ目の溶接 継ぎ目の溝カット エースミックSAS-R2張り付け、接着剤が十分硬化してから(少なくとも張り付け後3時間以上経過してから)継ぎ目を電動溝切り機、或いは、溝切りカッターを用いて溝切りを行います。(VまたはU溝で、溝の開口部が3mmより広くならないように注意します。) 溶接作業 エースミック溶接棒(エースミックSAS-R2と同色、直径3mm)をホットジェット溶接機を用いて溝に沿って加圧溶接します。	 
6.3	平刃による余盛のカット 溶接終了後表面より盛り上がっているビートを平刃でエースミックSAS-R2表面と同一平面になるように削り取ってください。	

<p>7.</p>	<p>ワックス掛け エースミックSAS-R2の優れた性能を長期間維持し、清潔に保つため、帯電防止効果をもつ樹脂ワックスを塗布します。 モップにワックスを含浸させ施工エリア方向を1往復で塗布してください。この場合、塗布しながらシート面に塗布ムラがない事を確認しながら進めます。 ※ワックスは重ね塗りをするとエースミックSAS-R2の導電性能を損なう可能性がありますので、1回塗りを推奨いたします。</p>	
<p>8.</p> <p>8-1</p> <p>8-2</p>	<p>抵抗値の測定 施工後のエースミックSAS-R2床面上の2点間抵抗値、及び接地抵抗値をNFPA規格に準拠して測定し、規定の電気性能に適合する事を確認することを確認します。 ・2点間抵抗値 : $1.0 \times 10^6 \Omega$ 未満、 ・接地抵抗値 : $2.5 \times 10^4 \Omega$ 以上</p> <p>2点間抵抗値の測定 施工したエースミックSAS-R2床面上に2つの電極を3フィート(91cm)離して置き、直流500vを印加したときの抵抗値を1フロア当たり5点以上測定し平均値を算出します。</p> <p>接地抵抗値の測定 接地極と、接地極から3フィート(91cm)以上離れたエースミックSAS-R2上に置いた電極との間に直流500vを印加したときの抵抗値を1フロア当たり5点以上測定し平均値を算出します。</p>	<p>2点間抵抗測定図</p>  <p>接地抵抗測定図</p> 